

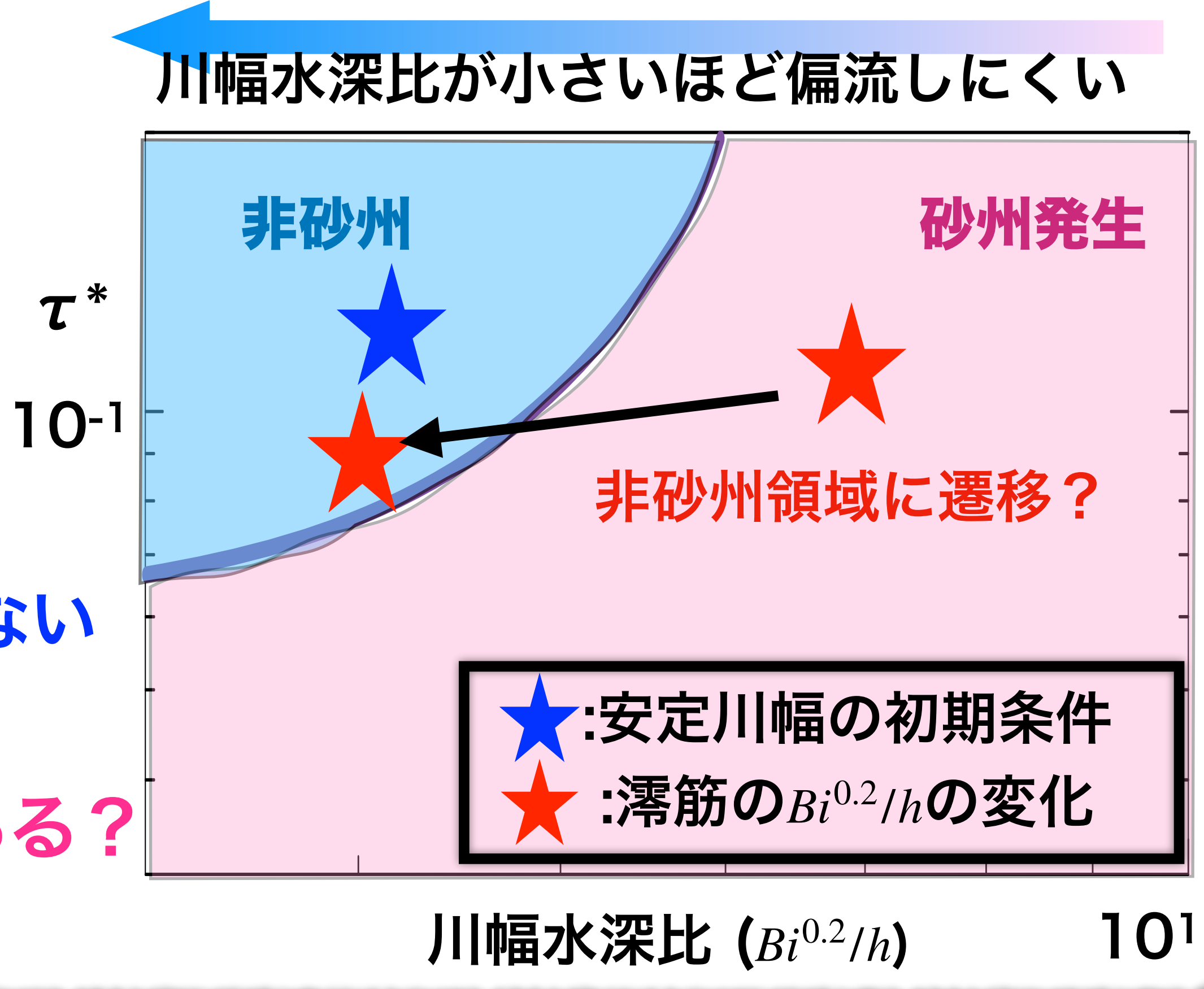
# 砂州の発達過程における滞筋の川幅水深比とその安定性

村井 剛徳<sup>1)</sup> 安田 浩保<sup>2)</sup>  
1)新潟大学大学院 自然科学研究科、2)新潟大学 災害・復興科学研究所

## ❖ 研究の背景と目的

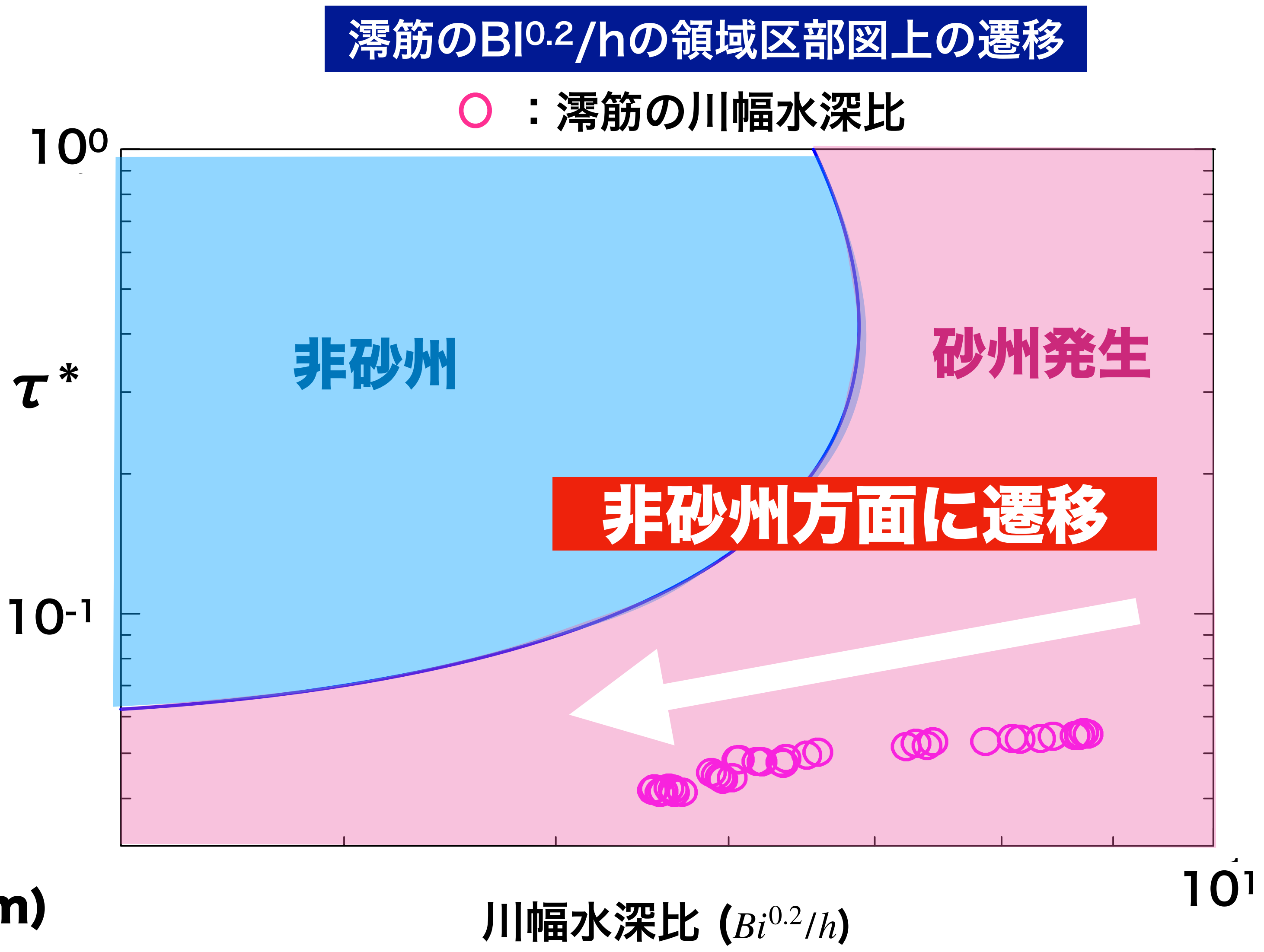
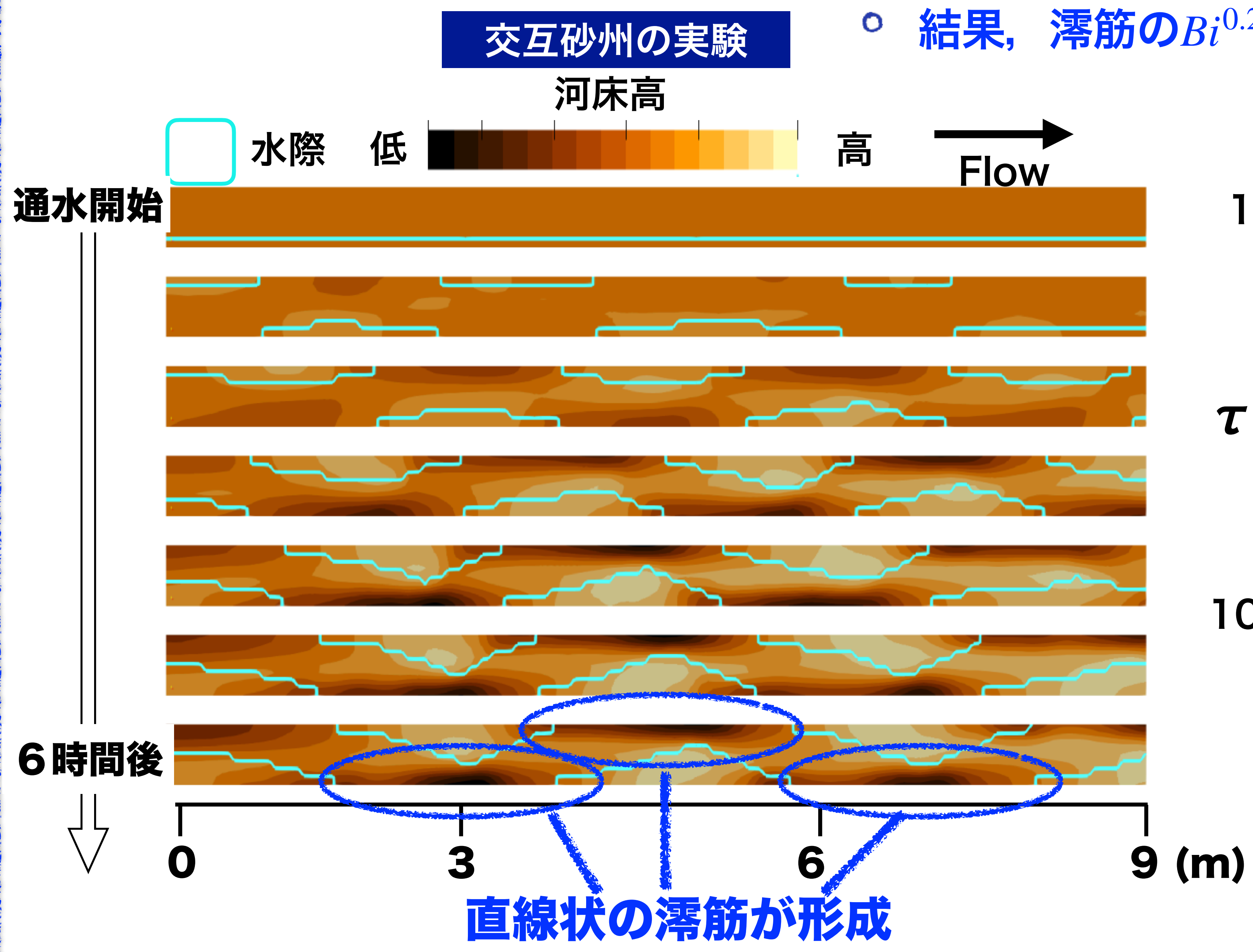
- 直線流路の砂礫河川では、交互砂州が形成され、洪水流が偏流
- 砂州の発生・発達の過程で形成される滞筋の安定性に着目
  - ▶ 滞筋の川幅水深比( $Bi^{0.2}/h$ )は初期の状態と比較すると減少傾向にある。
- 安定川幅の研究
  - ▶ **ただし、既往の安定川幅の研究で砂州の発生・発達を結びつけた結論はない**
- 直線状の滞筋と安定川幅は流水が直線に流れる。
- **十分に発達した「砂州の滞筋」といわゆる「安定川幅」は関連性がある？**

## 川幅水深比の領域区分図



## ❖ 滞筋の変化の安定性の検証

- 滞筋と安定川幅の関連性の前段階として滞筋の $Bi^{0.2}/h$ を測定
- 交互砂州の発生する条件で通水、滞筋の $Bi^{0.2}/h$ の時間変化を測定
- **結果、滞筋の $Bi^{0.2}/h$ は非砂州方向に遷移して変化が落ち着く**



## ❖ 実験結果

- 安定した滞筋の $Bi^{0.2}/h$ を初期条件として通水

